

## 1 研究主題 「文章を読み取る力を高める指導法の工夫」

## 2 研究の概要

部員は市教研国語部の研究主題及び活動計画を念頭に置き、各自が研究主題を追究すべく指導法の工夫に取り組む。そして、2回の授業研究会（筑波大学附属小学校二瓶弘行氏「自力読み」理論に基づく授業実践）を核に、2校の研究成果を各自及び各校の授業改善に反映させる。

## 3 研究の実際

### (1) 第1回授業研究会

期日：平成28年11月8日 対象：青海小学校第4学年

授業者：谷内卓生教頭 単元名：作品の心を受け取ろう

教材文：「世界でいちばんやかましい音」ベンジャミン・エルキン

「かさこ地ぞう」で物語文の読み取り方を学習し、新しい作品の読解に臨む習得・活用型の授業が行われた。教師の発問に答える形で各自読みを深め、時折、他者との対話をもちながら各自の読みを広げた。

物語の読み取りは、各自が感じたこと、思ったことを作品の心としてまとめることであり、各自の読みが肯定される。そのための学習過程として、作品全体を調べる（場面分け、あらすじまとめ）→クライマックス場面を検討する→作品の心をまとめるという道筋が設けられ、有効に機能していた。

協議会後半は「主体的な学びを引き出す習得・活用型の授業のつくり方」と題して谷内教頭の提案をもとにワークショップが行われた。

### (2) 第2回授業研究会

期日：平成28年11月29日 対象：糸魚川小学校第5学年

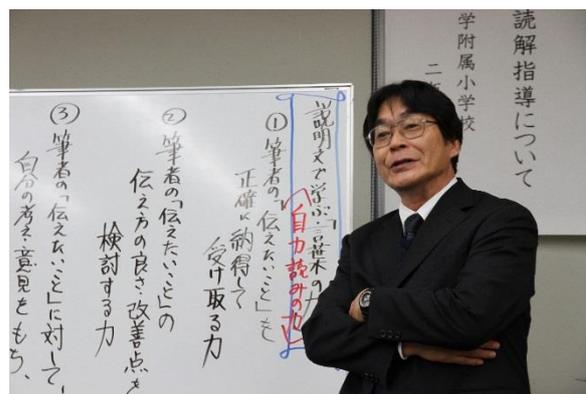
授業者：秋山佳子教諭 単元名：筆者の考えを受け取り自分の考えをもとう

教材文：「和紙の心」町田誠之

「和紙の心」という抽象的な文言について、叙述をもとにイメージマップを作りながら、具体的なものとしてとらえさせようとした。グループでの話し合い、全体での話し合いを通して、児童は筆者が伝えたい熱い思いに迫ろうとしていた。

説明文の読み取りは、筆者が何を、どのように伝えようとしているのかを受け取り、それに対して自分の考えをもつことである。そのための学習過程として、文章全体の構成をつかむ→意味段落の内容を読み取る→要旨をとらえ、筆者へのメッセージをまとめるという道筋が用意された。

協議会後は、筑波大学附属小学校二瓶弘行先生より「説明文の読解指導」について授業と絡めながらご講演いただいた。



## 4 成果と課題

子どもたち一人一人に文章を読み取る力を育てることは学校共通の課題である。物語文、説明文それぞれの読解に対するとらえ方が明確に示され、効果的な指導法が提案された。「自力読みの力を高める」をテーマとして、4年間全校体制で校内研究を進めてきた学校がある。学力検査で「読むこと」に関する偏差値平均4ポイントアップ。その上「書くこと」の偏差値アップ、国語学習への興味関心の向上にもつながったという。